

【特別寄稿】

日本体育大学における体罰経験の実態と変容

—学年による比較分析—

谷釜 了正¹⁾, 福場久美子²⁾, 宇部 弘子²⁾, 鈴木 悠介³⁾, 深見 将志⁴⁾,
市川優一郎⁵⁾, 軽部 幸浩⁶⁾, 藤田 圭一²⁾

¹⁾ 日本体育大学スポーツ史研究室

²⁾ 日本体育大学教育心理学研究室

³⁾ 東京都立板橋特別支援学校

⁴⁾ 日本大学商学部

⁵⁾ 日本大学文理学部

⁶⁾ 駒澤大学文学部

Changes in corporal punishment experiences at Nippon Sport Science University

—A comparative analysis by school years—

Ryosyo TANIGAMA, Kumiko FUKUBA, Hiroko UBE, Yusuke SUZUKI, Masashi FUKAMI,
Yuichiro ICHIKAWA, Yukihiro KARUBE and Shuichi FUJITA

Abstract: The present study is aimed at examining whether our University's educational methods and sports coaching activities have played a role in the decline of corporal punishment. A fact-finding survey was conducted about the corporal punishment, etc. experienced by students who were admitted to our University. Specifically, the subjects were, in April 2015, freshmen newly admitted to our University, sophomores who had received education for a year, and juniors who had received education for two years. Using the same questionnaire on all three groups, for three school years we examined the experiences of the students in sustaining corporal punishment, implementing corporal punishment, and their attitude in accepting corporal punishment. From the survey, we were able to elucidate the effect of education in eliminating corporal punishment, which has been a specific goal of our University.

(Received: May 9, 2016)

Key words: experiences of corporal punishment, contemporary university students, differences in school year

キーワード：体罰経験, 現代大学生, 学年差

目 的

本研究は、日本体育大学に所属する学生のうち、2015年4月の時点における新入生（1年生）、2年生、3年生に対し、体罰に関する本学独自の質問紙調査を実施したものである。この研究は本学の「反体罰・反暴力宣言」の具体的な実践活動を支えることを目的に、本学学生の実態を把握すること、年度ごとの推移を理解

すること、ならびに体罰撲滅への取り組み方法を追究することを目標にしている。2013年に研究がスタートして以来すでに3年が経過し、毎年ほぼすべての学生が調査に協力している。その成果は本学の学術雑誌に掲載され、学内外に公表されるとともに、本学教職員が等しく共有できるようになっている。

今回の調査研究は、本学での体罰排除教育を1年間あるいは2年間経験した学生と、未経験の新入生との

間にどのような意識や行動の違いが認められるのかを検討しようとするものである。得られたデータを忠実に分析し、3学年間の実態と変容を明らかにすることを目的とする。

方 法

1. 調査対象者

日本体育大学に所属する2015年度の1年生1,663名(男子:1,003名,女子:620名,未記入:40名,平均年齢:18.1(SD=0.48)歳),2年生1,473名(男子:934名,女子:515名,未記入24名,平均年齢:19.1(SD=0.59)歳),3年生1,069名(男子:642名,女子:421名,未記入:6名,平均年齢:20.1(SD=0.5)歳)を調査対象者とした。

2. 調査方法と調査時期

2013年にJOC(日本オリンピック委員会)がスポーツ選手に対して実施した調査票を参考に、高校・大学における体罰・暴力に関する質問票を独自に作成し、集合調査法によりおこなった。調査実施者は、調査対象者が本調査の主旨を理解できるように、研究の目的、記入方法、個人情報保護に関する内容を口頭で説明し、調査協力の同意を得た者にのみ無記名式にて回答を求めた。調査時期は、1年生では4月上旬の新入生オリエンテーション期間中に、2・3年生では4月中旬に当該学年を対象とする授業において担当教員の協力を得て実施した。なお、本研究は日本体育大学倫理審査委員会の承認を受けた。

3. 調査項目

(1) プロフィールに関する項目

調査対象者に対し、年齢、学年、性別、所属学科、高校の種類、高校の都道府県について回答を求めた。

質問1は、1年生の調査では「あなたは、高校生活でクラブ活動へ入っていましたか」の問いに、2・3年生の調査では「あなたは、大学生活でクラブ活動へ入っていますか」の問いについて、それぞれ「1年生に対しては『①入っていた』、2・3年生に対しては『①入っている』、『②入っていたが、途中でやめた』、『③入っていたが、途中で転部した』、『④入っていなかったが、途中で入った』、『⑤入っていなかった』の5件法で回答を求めた。

質問2は1年生の調査では「クラブ活動に入っていた方は、それはレギュラーでしたか」の問いに、2・3年生の調査では「クラブ活動に入っている方は、それはレギュラーですか」について、それぞれ1年生に対しては「①レギュラーだった」、2・3年生に対しては「①レギュラーである」、1年生に対しては「②レギュ

ラーでなかった」、2・3年生に対しては「②レギュラーでない」、「③その他」の3件法で回答を求めた。

(2) 体罰に関する項目

体罰に関する選択回答項目については、以下のとおりである。

質問3は、1年生の調査では「あなたは、普段の高校生活やクラブ活動等で、他者から体罰を受けたことがありますか。あるいは見聞きしたことがありますか」の問いに、2・3年生の調査では「あなたは、普段の大学生活やクラブ活動等で、他者から体罰を受けたことがありますか。あるいは見聞きしたことがありますか」の問いについて、それぞれ「①自分が体罰を受けたことがあった」、「②他者が体罰を受けているところを見たことがあった」、「③実際に見たことはないが、体罰があるという噂を聞いたことがあった」、「④体罰を受けたことも、見たことも、噂に聞いたこともなかった」の①～④の中から回答を求めた。なお、①～③と回答をした対象者に質問4の回答を求めた。

質問4は、(1)「それは、どのような行為でしたか」、(2)「それは、いつのことでしたか」、(3)「それは、誰からでしたか」、(4)「その頻度はどのぐらいでしたか」、(5)「それはどの程度のものでしたか」、(6)「それを行った理由をどのように説明されましたか」、(7)「それを受けたり、見たりしたとき、どのように対処されましたか」、(8)「それについて、今後どのような対応を考えていますか」について回答を求めた。

質問5は、「あなたは、大学生活で体罰を行ったことがありますか」、質問6は、「あなたは、学校における体罰をどのように考えていますか」、質問7は、「あなたは、学校における体罰を撲滅するためには、何が必要だと考えていますか」、質問8は「あなたは『体罰』についてどのように考えていますか。該当するところに○印を付けてください」について回答を求めた。

4. 分析方法

ここでは、質問3、質問4、質問8に関してまとめることにする。分析は、統計処理ソフトウェアIBM SPSS Statistics 22を用い、学年(1年生、2年生、3年生)と各質問項目における回答の有無でクロス集計をおこない、求められた頻度に対して χ^2 検定をおこなった。

結 果

各質問における回答の有無を学年ごとに集計し、 χ^2 検定をおこなったものである。

【質問3】「あなたは、普段の大学生活やクラブ活動等で、
他者から体罰を受けたことがありましたか。
あるいは見聞きしたことがありましたか。」

①「自分が体罰を受けたことがあった」

「自分が体罰を受けたことがあった」に回答した学生は、1年生155名(9.3%)、2年生77名(5.3%)、3年生68名(6.4%)となり、「自分が体罰を受けたことがあった」に回答しなかった学生は、1年生1,508名(90.7%)、2年生1,375名(94.7%)、3年生995名(93.6%)となった。学年が上がるごとに体罰を受けたり、見聞きしたりしたという経験者は減少している。検定の結果、学年と質問の回答との間に有意な差が認められた($\chi^2=20.09$, $df=2$, $p<.001$)。残差分析の結果、1年生は他の学年に比べて体罰を受けたことがあったと答えた人数が期待度数より多く、2年生は体罰を受けたことがあったと答えた人数が期待度数より少なかった。

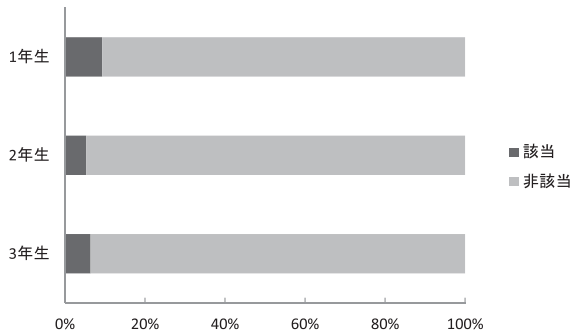


図1 質問3-①

【質問3】「あなたは、普段の大学生活やクラブ活動等で、
他者から体罰を受けたことがありましたか。
あるいは見聞きしたことがありましたか。」

②「他者が体罰を受けているところを見たことがあった」

「他者が体罰を受けているところを見たことがあった」に回答した学生は、1年生186名(11.2%)、2年生61名(4.2%)、3年生68名(6.4%)となり、「他者が体罰を受けているところを見たことがあった」に回答していない学生は、1年生1,477名(88.8%)、2年生1,391名(95.8%)、3年生995名(93.6%)となった。1年生に比べると2年生、3年生は他者が体罰を受けているところを見たことがあるという目撃者が少なかった。検定の結果、学年と質問の回答との間に有意な差が認められた($\chi^2=56.90$, $df=2$, $p<.001$)。残差分析の結果、1年生は他の学年に比べて体罰を受けているところを見たことがあったと答えた人数が期待度数より多く、2年生は体罰を受けているところを見たことがあったと答えた人数が期待度数より少なかった。

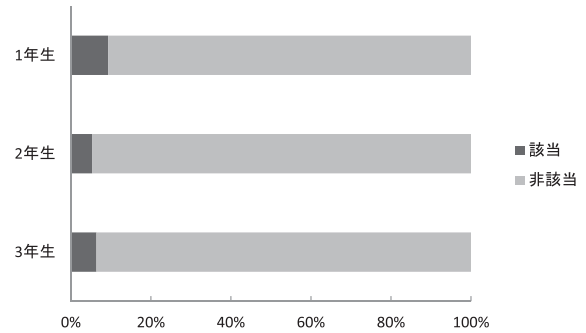


図2 質問3-②

【質問3】「あなたは、普段の大学生活やクラブ活動等で、
他者から体罰を受けたことがありましたか。
あるいは見聞きしたことがありましたか。」

③「実際に見たことはないが、体罰があるという噂を聞いたことがあった」

「実際に見たことはないが、体罰があるという噂を聞いたことがあった」に回答した学生は、1年生182名(10.9%)、2年生121名(8.3%)、3年生103名(9.7%)となり、「実際に見たことはないが、体罰があるという噂を聞いたことがあった」に回答しなかった学生は、1年生1,481名(89.1%)、2年生1,331名(91.7%)、3年生960名(90.3%)となった。検定の結果、学年と質問の回答との間に有意な差が認められた($\chi^2=6.02$, $df=2$, $p<.05$)。残差分析の結果、1年生は他の学年に比べて実際に見たことはないが、体罰があるという噂を聞いたことがあったと答えた人数が期待度数より多く、2年生は実際に見たことはないが、体罰があるという噂を聞いたことがあったと答えた人数が期待度数より少なかった。

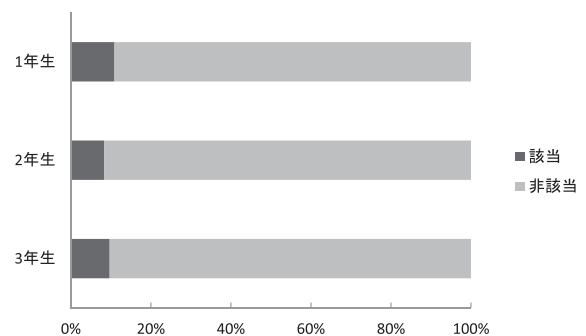


図3 質問3-③

【質問3】「あなたは、普段の大学生活やクラブ活動等で、
他者から体罰を受けたことがありましたか。
あるいは見聞きしたことがありましたか。」

④「体罰を受けたことも、見たことも、噂に聞いたこともなかった」

「体罰を受けたことも、見たことも、噂に聞いたこともなかった」に回答した学生は、1年生1,134名(68.2%)、

2年生 1,160名 (79.9%), 3年生 814名 (76.6%) となり、「体罰を受けたことも、見たことも、噂に聞いたこともなかった」に回答しなかった学生は、1年生 529名 (31.8%), 2年生 292名 (20.1%), 3年生 249名 (23.4%) となった。体罰を受けたことも、見たことも、噂に聞いたこともないという回答が学年によって異なり、検定の結果、学年と質問の回答との間に有意な差が認められた ($\chi^2=59.27, df=2, p<.001$)。残差分析の結果、1年生は他の学年に比べて体罰を受けたことも、見たことも、噂に聞いたこともなかったと答えた人数が期待度数より少なく、2年生、3年生は体罰を受けたことも、見たことも、噂に聞いたこともなかったと答えた人数が期待度数より多かった。

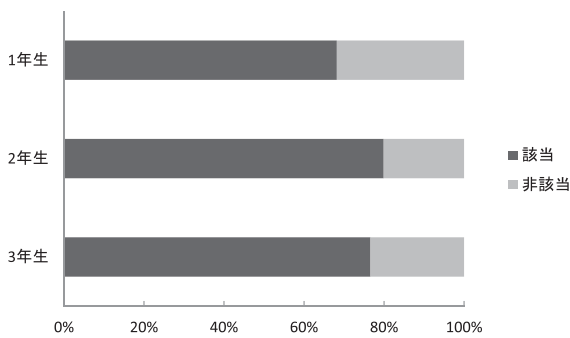


図4 質問3-④

【質問4】(1)「それは、どのような行為でしたか。」

①「殴る、蹴る、物で叩く等の暴力」

「どのような行為でしたか」の「殴る、蹴る、物で叩く等の暴力」に回答した学生は、1年生 371名 (70.1%), 2年生 163名 (55.8%), 3年生 173名 (69.5%) となり、「どのような行為でしたか」の「殴る、蹴る、物で叩く等の暴力」に回答しなかった学生は、1年生 158名 (29.9%), 2年生 129名 (44.2%), 3年生 76名 (30.5%) となった。検定の結果、学年と質問の回答との間に有意な差が認められた ($\chi^2=18.87, df=2, p<.001$)。残差分析の結果、「殴る、蹴る、物で叩く等の暴力」に回答した1年生の人数は、期待度数よりも多く、2年生は期待度数よりも少なかった。

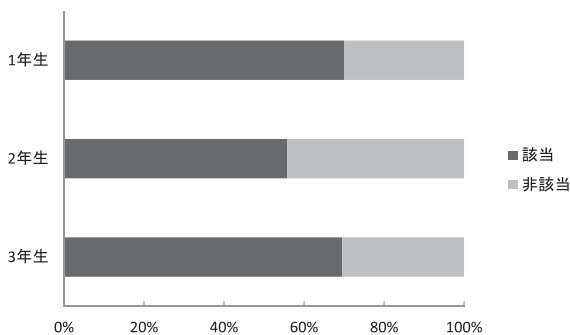


図5 質問4 (1)-①

【質問4】(1)「それは、どのような行為でしたか。」

②「人格を否定するような暴言」

「どのような行為でしたか」の「人格を否定するような暴言」に回答した学生は、1年生 138名 (26.1%), 2年生 93名 (31.8%), 3年生 73名 (29.3%) となり、「人格を否定するような暴言」に回答しなかった学生は、1年生 391名 (73.9%), 2年生 199名 (68.2%), 3年生 176名 (70.7%) であった。検定の結果、学年と質問の回答との間に有意な差は認められなかった。

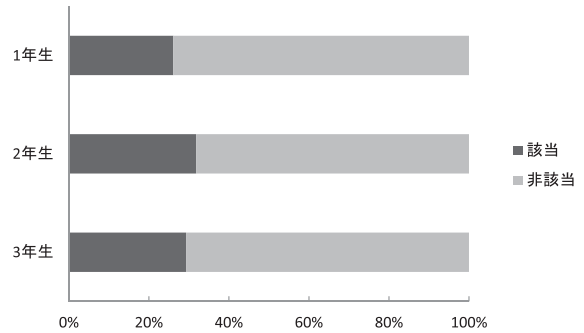


図6 質問4 (1)-②

【質問4】(1)「それは、どのような行為でしたか。」

③「教員あるいは指導者の立場を利用した威圧や脅し」

「どのような行為でしたか」の「教員あるいは指導者の立場を利用した威圧や脅し」に回答した学生は、1年生 77名 (14.6%), 2年生 45名 (15.4%), 3年生 23名 (9.2%) となり、「教員あるいは指導者の立場を利用した威圧や脅し」に回答しなかった学生は、1年生 452名 (85.4%), 2年生 247名 (84.6%), 3年生 226名 (90.8%) であった。検定の結果、学年と質問の回答との間に有意差は認められなかった。

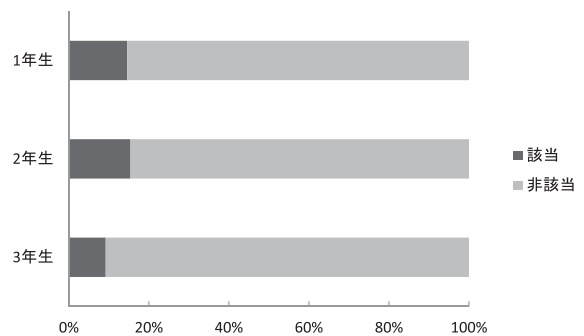


図7 質問4 (1)-③

【質問4】(1)「それは、どのような行為でしたか。」

④「その他」

「どのような行為でしたか」の「その他」に回答した学生は、1年生 10名 (1.9%), 2年生 14名 (4.8%), 3年生 4名 (1.6%) となり、「その他」に回答しなかつ

た学生は、1年生519名(98.1%)、2年生278名(95.2%)、3年生245名(98.4%)であった。検定の結果、学年と質問の回答との間に有意な差が認められた($\chi^2=7.53$, $df=2$, $p<.05$)。残差分析の結果、「その他」に回答した2年生のみ、回答数が期待度数よりも大きかった。

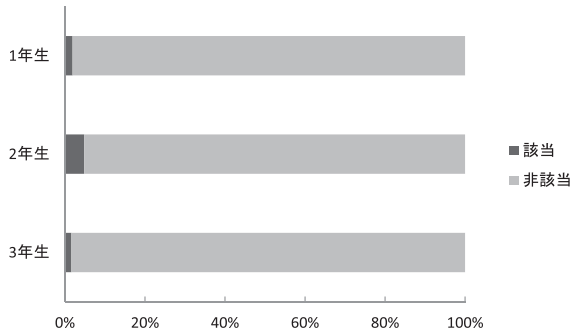


図8 質問4(1)-④

【質問4】(2)「それは、いつのことでしたか。」

①「授業中」

「それはいつのことでしたか」の「授業中」に回答した学生は、1年生42名(7.9%)、2年生9名(3.1%)、3年生9名(3.6%)となり、「授業中」に回答しなかった学生は、1年生487名(92.1%)、2年生283名(96.9%)、3年生240名(96.4%)であった。検定の結果、学年と質問の回答との間に有意な差が認められた($\chi^2=10.82$, $df=2$, $p<.01$)。残差分析の結果、「授業中」に回答した1年生は期待度数よりも多く、2年生は期待度数よりも少なかった。また3年生に関しても、わずかではあるが、期待度数よりも少なかった。

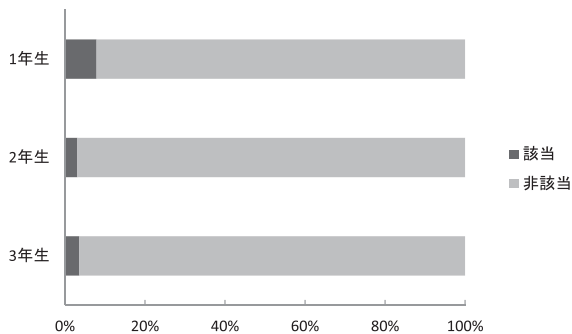


図9 質問4(2)-①

【質問4】(2)「それは、いつのことでしたか。」

②「休み時間」

「それはいつのことでしたか」の「休み時間」に回答した学生は、1年生32名(6.0%)、2年生29名(9.9%)、3年生21名(8.4%)となり、「休み時間」に回答しなかった学生は、1年生497名(94.0%)、2年生263名(90.1%)、3年生228名(91.6%)であった。検定の結

果、学年と質問の回答との間に有意な差は認められなかった。

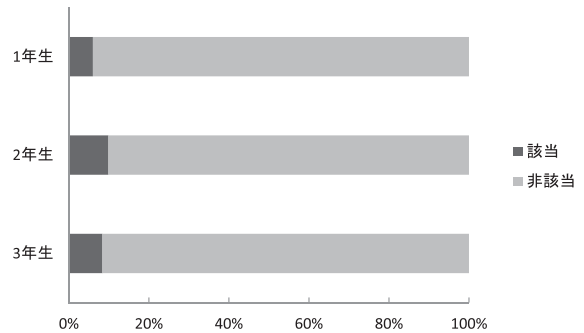


図10 質問4(2)-②

【質問4】(2)「それは、いつのことでしたか。」

③「クラブ活動」

「それはいつのことでしたか」の「クラブ活動」に回答した学生は、1年生367名(69.4%)、2年生159名(54.5%)、3年生143名(57.4%)となり、「クラブ活動」に回答しなかった学生は、1年生162名(30.6%)、2年生133名(45.5%)、3年生106名(42.6%)であった。クラブ活動中の体罰経験は在校生に比べて1年生に多く、検定の結果、学年と質問の回答との間に有意な差が認められた($\chi^2=21.48$, $df=2$, $p<.001$)。残差分析の結果、1年生はクラブ活動と答えた人数が期待度数より多く、2年生、3年生はクラブ活動と答えた人数が期待度数より少なかった。

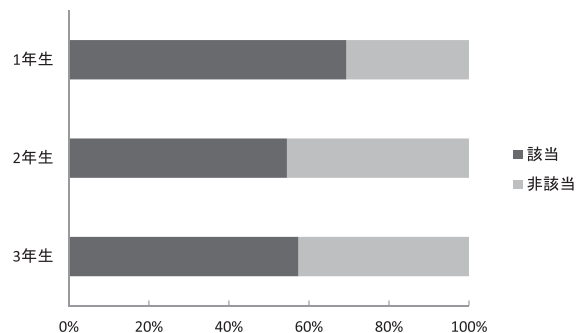


図11 質問4(2)-③

【質問4】(2)「それは、いつのことでしたか。」

④「その他」

「それはいつのことでしたか」の「その他」に回答した学生は、1年生41名(7.8%)、2年生45名(15.4%)、3年生50名(20.1%)となり、「その他」に回答しなかった学生は、1年生488名(92.2%)、2年生247名(84.6%)、3年生199名(79.9%)であった。検定の結果、学年と質問の回答との間に有意な差が認められた($\chi^2=25.84$, $df=2$, $p<.001$)。残差分析の結果、「その他」に

回答した1年生の回答数は期待度数よりも少なく、3年生は期待度数よりも多かった。また2年生についても、わずかではあるが、期待度数よりも多かった。

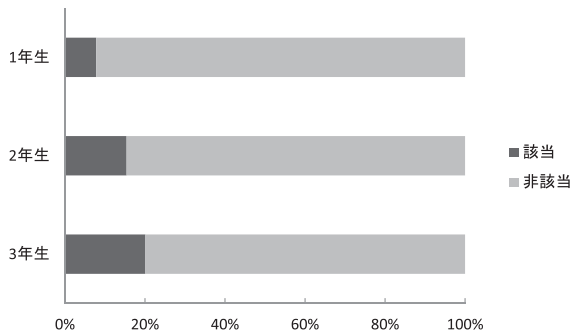


図12 質問4(2)-④

【問題4】(3)「それは、誰からでしたか。」

①「担任の教員」

「それは、だれからでしたか」の「担任の教員」に回答した学生は、1年生27名(5.1%)、2年生9名(3.1%)、3年生8名(3.2%)となり、「担任の教員」に回答しなかった学生は、1年生502名(94.9%)、2年生282名(96.9%)、3年生241名(96.8%)であった。検定の結果、学年と質問の回答との間に有意差は認められなかった。

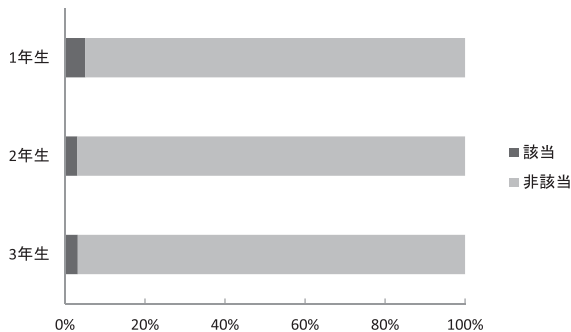


図13 質問4(3)-①

【問題4】(3)「それは、誰からでしたか。」

②「教科の教員」

「それは、だれからでしたか」の「教科の教員」に回答した学生は、1年生37名(7.0%)、2年生8名(2.7%)、3年生6名(2.4%)となり、「教科の教員」に回答しなかった学生は、1年生492名(93.0%)、2年生283名(97.3%)、3年生243名(97.6%)であった。検定の結果、学年と質問の回答との間に有意な差が認められた($\chi^2=11.43, df=2, p<.01$)。残差分析の結果、「教科の教員」に回答した1年生の回答数は期待度数よりも多く、2年生、3年生は期待度数よりも少なかった。

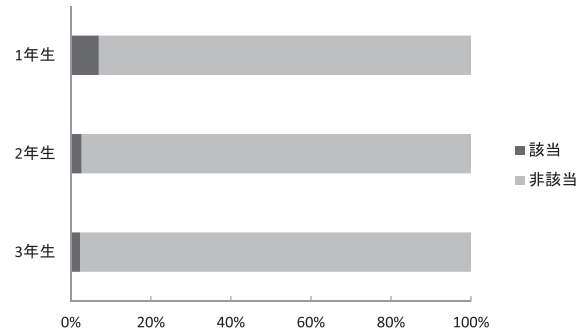


図14 質問4(3)-②

【問題4】(3)「それは、誰からでしたか。」

③「クラブ活動の内部の指導者」

「それは、だれからでしたか」の「クラブ活動の内部の指導者」に回答した学生は、1年生316名(59.7%)、2年生80名(27.4%)、3年生63名(25.3%)となり、「クラブ活動の内部の指導者」に回答しなかった学生は、1年生213名(59.7%)、2年生212名(72.6%)、3年生186名(74.7%)であった。検定の結果、学年と質問の回答との間に有意な差が認められた($\chi^2=121.34, df=2, p<.001$)。残差分析の結果、「クラブ活動の内部の指導者」に回答した1年生の回答数は期待度数よりも多く、2年生、3年生は期待度数よりも少なかった。

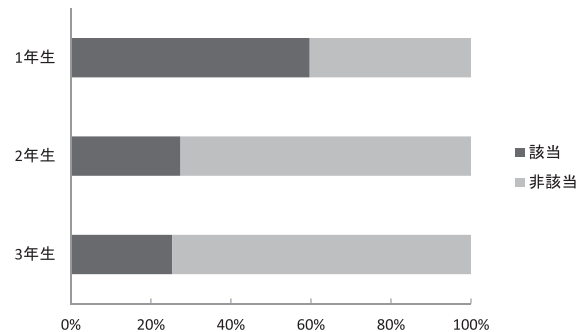


図15 質問4(3)-③

【問題4】(3)「それは、誰からでしたか。」

④「クラブ活動の外部の指導者」

「それは、誰からでしたか」の「クラブ活動の外部の指導者」に回答した学生は、1年生29名(5.5%)、2年生9名(3.1%)、3年生7名(2.8%)となり、「クラブ活動の外部の指導者」に回答した学生は、1年生500名(94.5%)、2年生283名(96.9%)、3年生242名(97.2%)であった。検定の結果、学年と質問の回答との間に有意差は認められなかった。

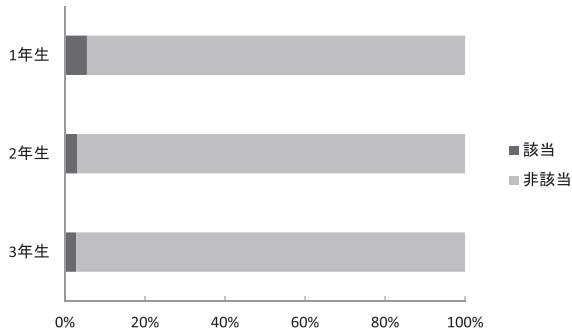


図 16 質問 4 (3) - ④

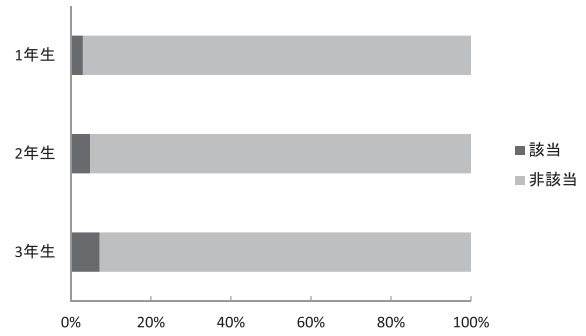


図 18 質問 4 (3) - ⑥

【問題 4】(3) 「それは、誰からでしたか。」

⑤ 「在校生」

「それは、だれからでしたか」の「在校生」に回答した学生は、1年生 78 名 (14.7%)、2年生 129 名 (44.2%)、3年生 128 名 (51.4%) となり、「在校生」に回答しなかった学生は、1年生 451 名 (85.3%)、2年生 163 名 (55.8%)、3年生 121 名 (48.6%) であった。検定の結果、学年と質問の回答との間に有意な差が認められた ($\chi^2=136.74, df=2, p<.001$)。残差分析の結果、「在校生」に回答した 1 年生の回答数は期待度数よりも少なく、2 年生、3 年生は期待度数よりも多かった。

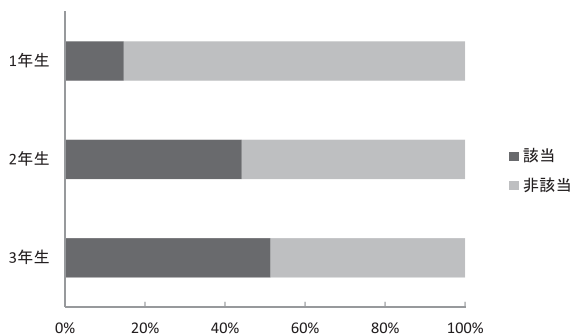


図 17 質問 4 (3) - ⑤

【問題 4】(3) 「それは、誰からでしたか。」

⑥ 「その他」

「それは、だれからでしたか」の「その他」に回答した学生は、1年生 16 名 (3.0%)、2年生 14 名 (4.8%)、3年生 28 名 (7.2%) となり、「その他」に回答しなかった学生は、1年生 513 名 (97.0%)、2年生 278 名 (95.2%)、3年生 231 名 (92.8%) であった。検定の結果、学年と質問の回答との間に有意差が認められた ($\chi^2=7.07, df=2, p<.05$)。残差分析の結果、「その他」に回答した 1 年生の回答数は期待度数よりも少なく、2 年生、3 年生は期待度数よりも多かった。

【質問 4】(4) 「その頻度はどのくらいでしたか。」

① 「1 回のみ」

「頻度はどれくらいでしたか」の「1 回のみ」に回答した学生は、1年生 149 名 (28.2%)、2年生 72 名 (24.7%)、3年生 55 名 (22.1%) となり、「1 回のみ」に回答しなかった学生は、1年生 380 名 (71.8%)、2年生 220 名 (75.3%)、3年生 194 名 (77.9%) であった。検定の結果、学年と質問の回答との間に有意差は認められなかった。

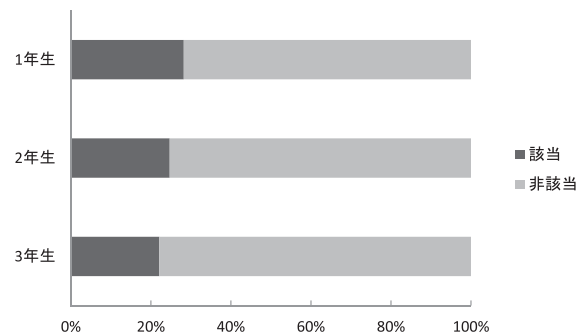


図 19 質問 4 (4) - ①

【質問 4】(4) 「その頻度はどのくらいでしたか。」

② 「複数回」

「その頻度はどのくらいでしたか」の「複数回」に回答した学生は、1年生 181 名 (34.2%)、2年生 72 名 (24.7%)、3年生 83 名 (33.3%) となり、「複数回」に回答しなかった学生は、1年生 348 名 (65.8%)、2年生 220 名 (75.3%)、3年生 166 名 (66.7%) であった。検定の結果、学年と質問の回答との間に有意差が認められた ($\chi^2=8.54, df=2, p<.05$)。残差分析の結果、「複数回」に回答した 1 年生の人数は期待度数よりも多く、2 年生の人数は期待度数よりも少なかった。

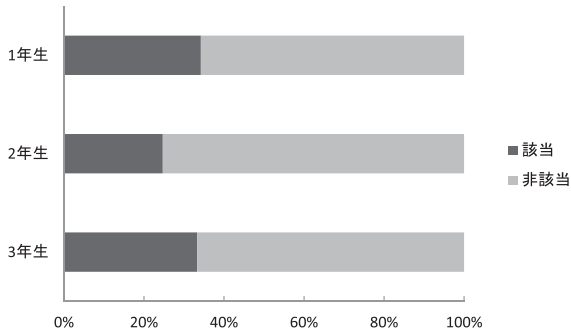


図 20 質問 4 (4) - ②

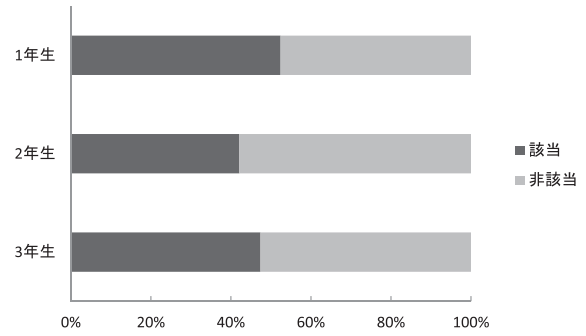


図 22 質問 4 (5) - ①

【質問 4】(4) 「その頻度はどのくらいでしたか。」

③ 「日常的に」

「その頻度はどのくらいでしたか」の「日常的に」に回答した学生は、1年生 72 名 (13.6%)、2年生 56 名 (19.2%)、3年生 40 名 (16.1%) となり、「日常的に」に回答しなかった学生は、1年生 457 名 (86.4%)、2年生 236 名 (80.8%)、3年生 209 名 (83.9%) であった。検定の結果、学年と質問の回答との間に有意差は認められなかった。

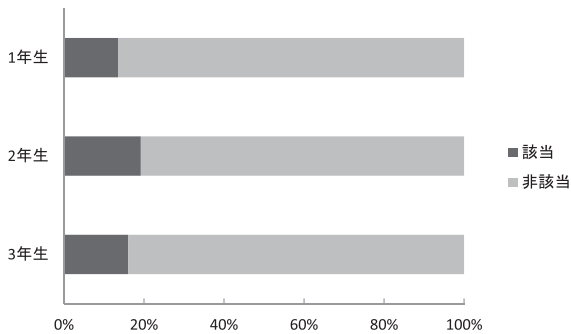


図 21 質問 4 (4) - ③

【質問 4】(5) 「それはどの程度のものでしたか。」

② 「肉体的な苦痛を伴い、治療を必要とするものだった」

「それはどの程度のものでしたか」の「肉体的な苦痛を伴い、治療を必要とするものだった」に回答した学生は、1年生 28 名 (5.3%)、2年生 18 名 (6.2%)、3年生 11 名 (4.4%) となり、「肉体的な苦痛を伴い、治療を必要とするものだった」に回答しなかった学生は、1年生 501 名 (94.7%)、2年生 274 名 (93.8%)、3年生 238 名 (95.6%) であった。検定の結果、学年と質問の回答との間に有意差が認められなかった。

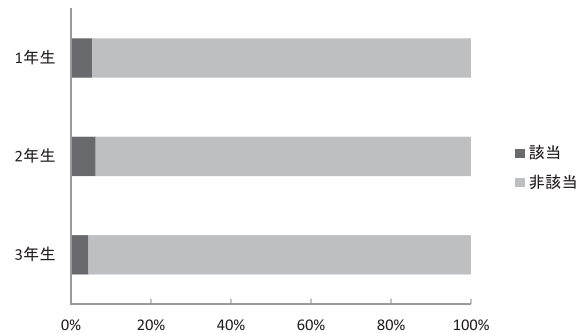


図 23 質問 4 (5) - ②

【質問 4】(5) 「それはどの程度のものでしたか。」

① 「肉体的な苦痛を伴ったが、治療するまでのものではなかった」

「それはどの程度のものでしたか」の「肉体的な苦痛を伴ったが、治療するまでのものではなかった」に回答した学生は、1年生 277 名 (52.4%)、2年生 123 名 (42.1%)、3年生 118 名 (47.4%) となり、「肉体的な苦痛を伴ったが、治療するまでのものではなかった」に回答しなかった学生は、1年生 252 名 (47.6%)、2年生 169 名 (57.9%)、3年生 131 名 (52.6%) であった。検定の結果、学年と質問の回答との間に有意差が認められた ($\chi^2=8.04$, $df=2$, $p<.05$)。残差分析の結果、「肉体的な苦痛を伴ったが、治療するまでのものではなかった」に回答した 1 年生の人数は期待度数よりも多く、2 年生の人数は期待度数よりも少なかった。

【質問 4】(5) 「それはどの程度のものでしたか。」

③ 「精神的な苦痛を伴うものであった」

「それはどの程度のものでしたか」の「精神的な苦痛を伴うものであった」に回答した学生は、1年生 145 名 (27.4%)、2年生 94 名 (32.2%)、3年生 77 名 (30.9%) となり、「精神的な苦痛を伴うものであった」に回答しなかった学生は、1年生 384 名 (72.6%)、2年生 198 名 (67.8%)、3年生 172 名 (69.1%) であった。検定の結果、学年と質問の回答との間に有意差が認められなかった。

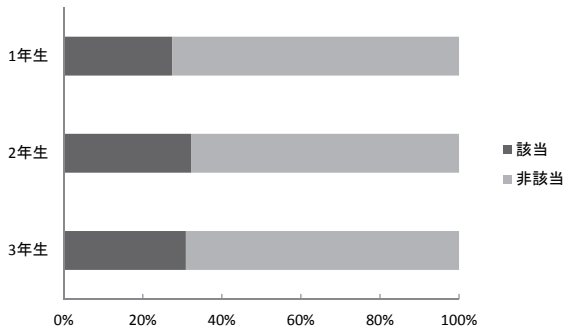


図 24 質問 4 (5) - ③

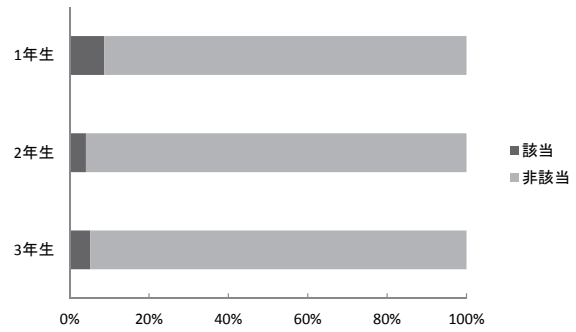


図 26 質問 4 (6) - ①

【質問 4】(5)「それはどの程度のものでしたか。」

④「その他」

「それはどの程度のものでしたか」の「その他」に回答した学生は、1年生 33 名 (6.2%)、2年生 28 名 (9.6%)、3年生 28 名 (11.2%) となり、「その他」に回答しなかった学生は、1年生 496 名 (93.8%)、2年生 264 名 (90.4%)、3年生 221 名 (88.8%) であった。検定の結果、学年と質問の回答との間に有意差が認められた ($\chi^2=6.42, df=2, p<.05$)。残差分析の結果、「その他」に回答した 1 年生の人数は、期待度数よりも少なかった。またわずかではあるが、3 年生の回答数が期待度数よりも多かった。

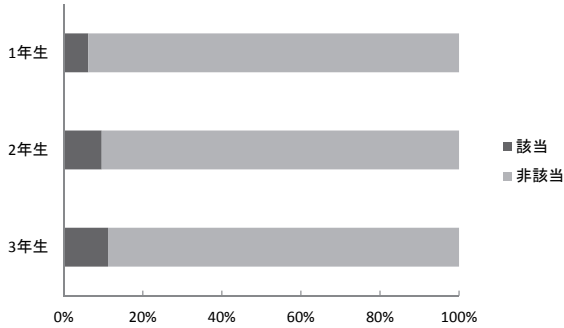


図 25 質問 4 (5) - ④

【質問 4】(6)「それを行った理由をどのように説明されましたか。」

①「授業中の態度が悪い」

「それを行った理由をどのように説明されましたか」の「授業中の態度が悪い」に回答した学生は、1年生 46 名 (8.7%)、2年生 12 名 (4.1%)、3年生 13 名 (5.2%) となり、「授業中の態度が悪い」に回答しなかった学生は、1年生 483 名 (91.3%)、2年生 280 名 (95.9%)、3年生 236 名 (94.8%) であった。検定の結果、学年と質問の回答との間に有意差が認められた ($\chi^2=7.44, df=2, p<.05$)。残差分析の結果、「授業中の態度が悪い」に回答した 1 年生の人数は、期待度数よりも多く、2 年生の人数は期待度数よりも少なかった。

【質問 4】(6)「それを行った理由をどのように説明されましたか。」

②「休み時間中の態度が悪い」

「それを行った理由をどのように説明されましたか」の「休み時間中の態度が悪い」に回答した学生は、1年生 9 名 (1.7%)、2年生 8 名 (2.7%)、3年生 7 名 (2.8%) となり、「休み時間中の態度が悪い」に回答しなかった学生は、1年生 520 名 (98.3%)、2年生 284 名 (97.3%)、3年生 242 名 (97.2%) であった。検定の結果、学年と質問の回答との間に有意差が認められなかった。

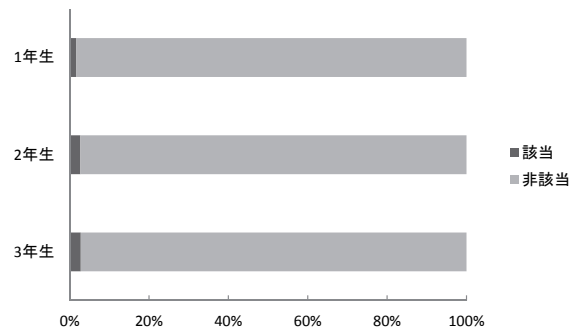


図 27 質問 4 (6) - ②

【質問 4】(6)「それを行った理由をどのように説明されましたか。」

③「クラブ活動中の態度が悪い」

「それを行った理由をどのように説明されましたか」の「クラブ活動中の態度が悪い」に回答した学生は、1年生 249 名 (47.1%)、2年生 131 名 (45.0%)、3年生 124 名 (49.8%) となり、「クラブ活動中の態度が悪い」に回答しなかった学生は、1年生 280 名 (52.9%)、2年生 160 名 (55.0%)、3年生 125 名 (50.2%) であった。検定の結果、学年と質問の回答との間に有意差が認められなかった。

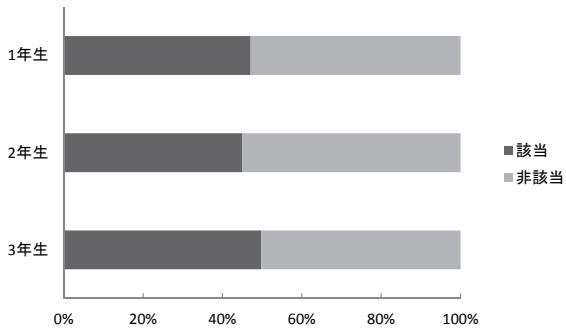


図 28 質問 4 (6) - ③

【質問 4】(6)「それを行った理由をどのように説明されましたか。」

④「その他」

「それを行った理由をどのように説明されましたか」の「その他」に回答した学生は、1年生 159 名 (30.1%)、2年生 84 名 (28.9%)、3年生 85 名 (34.1%) となり、「その他」に回答しなかった学生は、1年生 370 名 (69.9%)、2年生 207 名 (71.1%)、3年生 164 名 (65.9%) であった。検定の結果、学年と質問の回答との間に有意差が認められなかった。

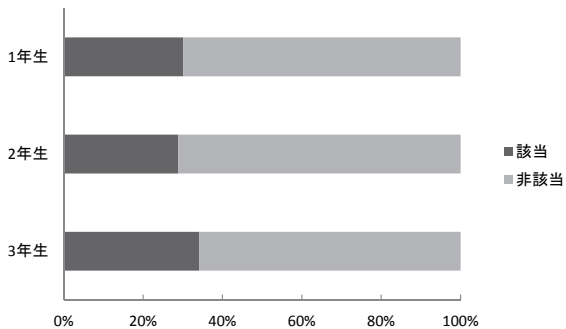


図 29 質問 4 (6) - ④

【質問 4】(7)「それを受けたり、見たりしたとき、どのように対処されましたか。」

①「他の教師や指導者に相談して解決を図った」

「それを受けたり、見たりしたとき、どのように対処されましたか」の「他の教師や指導者に相談して解決を図った」に回答した学生は、1年生 57 名 (10.8%)、2年生 17 名 (5.8%)、3年生 18 名 (7.2%) となり、「他の教師や指導者に相談して解決を図った」に回答しなかった学生は、1年生 472 名 (89.2%)、2年生 275 名 (94.2%)、3年生 231 名 (92.8%) であった。検定の結果、学年と質問の回答との間に有意差が認められた ($\chi^2=6.65, df=2, p<.05$)。残差分析の結果、「他の教師や指導者に相談して解決を図った」に回答した 1 年生の人数は期待度数よりも多く、2 年生は期待度数よりも少なかった。

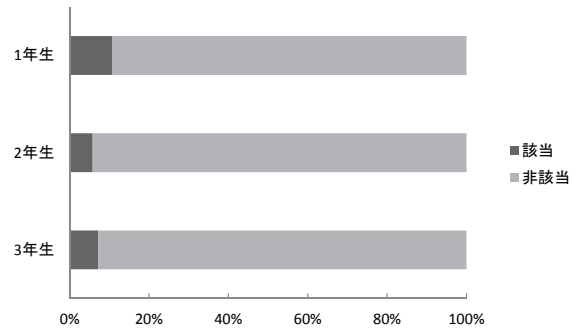


図 30 質問 4 (7) - ①

【質問 4】(7)「それを受けたり、見たりしたとき、どのように対処されましたか。」

②「誰にも相談することができずに、一人で悩んだ」

「それを受けたり、見たりしたとき、どのように対処されましたか」の「誰にも相談することができずに、一人で悩んだ」に回答した学生は、1年生 35 名 (6.6%)、2年生 35 名 (12.0%)、3年生 23 名 (9.2%) となり、「誰にも相談することができずに、一人で悩んだ」に回答しなかった学生は、1年生 494 名 (93.4%)、2年生 257 名 (88.0%)、3年生 226 名 (90.8%) であった。検定の結果、学年と質問の回答との間に有意差が認められた ($\chi^2=6.96, df=2, p<.05$)。残差分析の結果、「誰にも相談することができずに、一人で悩んだ」に回答した 1 年生の人数は期待度数よりも少なく、2 年生は期待度数よりも多かった。

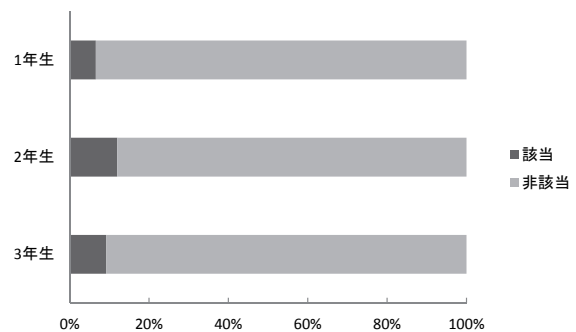


図 31 質問 4 (7) - ②

【質問 4】(7)「それを受けたり、見たりしたとき、どのように対処されましたか。」

③「特に気にとめることもなかった」

「それを受けたり、見たりしたとき、どのように対処されましたか」の「特に気にとめることもなかった」に回答した学生は、1年生 263 名 (49.7%)、2年生 115 名 (39.4%)、3年生 111 名 (44.6%) となり、「特に気にとめることもなかった」に回答しなかった学生は、1年生 266 名 (50.3%)、2年生 177 名 (60.6%)、3年生

138名(55.4%)であった。検定の結果,学年と質問の回答との間に有意差が認められた($\chi^2=8.26, df=2, p<.05$)。残差分析の結果,「他の教師や指導者に相談して解決を図った」に回答した1年生の人数は期待度数よりも多く,2年生は期待度数よりも少なかった。

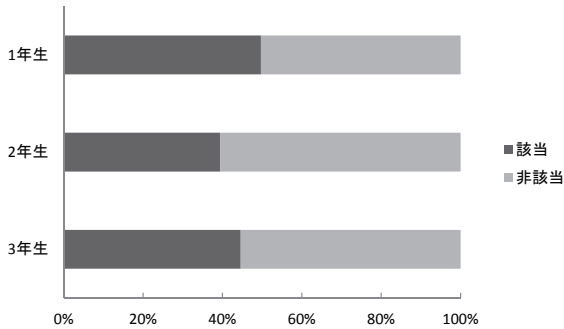


図 32 質問 4 (7) - ③

【質問 4】(7)「それを受けたり,見たりしたとき,どのように対処されましたか。」

④「その他」

「それを受けたり,見たりしたとき,どのように対処されましたか」の「その他」に回答した学生は,1年生76名(14.4%),2年生57名(19.5%),3年生62名(24.9%)となり,「その他」に回答しなかった学生は,1年生453名(85.6%),2年生235名(80.5%),3年生187名(75.1%)であった。検定の結果,学年と質問の回答との間に有意差が認められた($\chi^2=13.06, df=2, p<.01$)。残差分析の結果,「その他」に回答した1年生の人数は期待度数よりも少なく,3年生は期待度数よりも多かった。

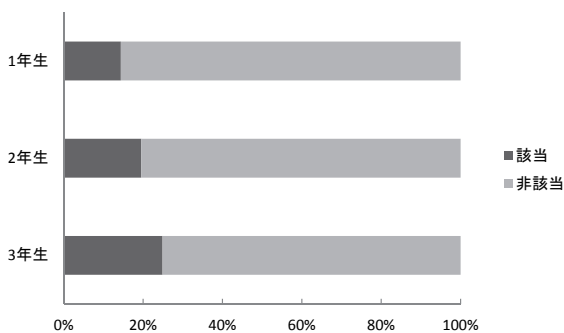


図 33 質問 4 (7) - ④

【質問 4】(8)「それについて,今後どのような対応を考えていますか。」

①「原因になるようなことをしないように努めたい」

「それについて,今後どのような対応を考えていますか」の「原因になるようなことをしないように努めたい」に回答した学生は,1年生155名(29.3%),2年

生65名(22.3%),3年生65名(26.1%)となり,「原因になるようなことをしないように努めたい」に回答しなかった学生は,1年生374名(70.7%),2年生227名(77.7%),3年生184名(73.9%)であった。検定の結果,学年と質問の回答との間に有意差は認められなかった。

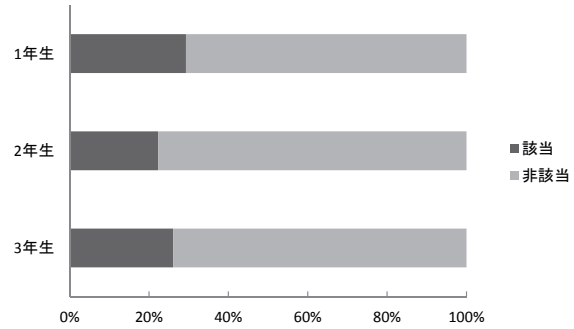


図 34 質問 4 (8) - ①

【質問 4】(8)「それについて,今後どのような対応を考えていますか。」

②「他の教員や指導者に相談したい」

「それについて,今後どのような対応を考えていますか」の「他の教員や指導者に相談したい」に回答した学生は,1年生49名(9.3%),2年生20名(6.9%),3年生19名(7.6%)となり,「他の教員や指導者に相談したい」に回答しなかった学生は,1年生480名(90.7%),2年生271名(93.1%),3年生230名(92.4%)であった。検定の結果,学年と質問の回答との間に有意差は認められなかった。

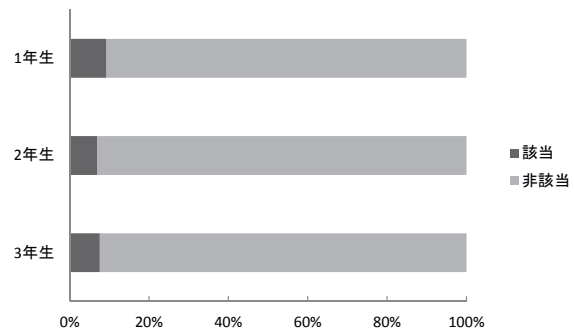


図 35 質問 4 (8) - ②

【質問 4】(8)「それについて,今後どのような対応を考えていますか。」

③「第三者機関や通報窓口等があれば相談したい」

「それについて,今後どのような対応を考えていますか」の「第三者機関や通報窓口等があれば相談したい」に回答した学生は,1年生36名(6.8%),2年生27名(9.3%),3年生21名(8.4%)となり,「第三者機関や

通報窓口等があれば相談したい」に回答しなかった学生は、1年生493名(93.2%)、2年生264名(90.7%)、3年生228名(91.6%)であった。検定の結果、学年と質問の回答との間に有意差は認められなかった。

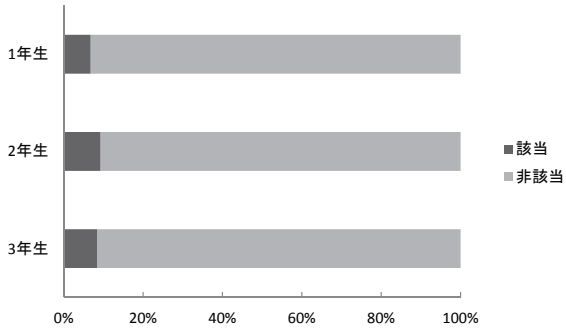


図 36 質問 4 (8) - ③

【質問 4】(8)「それについて、今後どのような対応を考えていますか。」

④「特に考えていない」

「それについて、今後どのような対応を考えていますか」の「特に考えていない」に回答した学生は、1年生176名(33.3%)、2年生88名(30.1%)、3年生91名(36.5%)となり、「特に考えていない」に回答しなかった学生は、1年生353名(66.7%)、2年生204名(69.9%)、3年生158名(63.5%)であった。検定の結果、学年と質問の回答との間に有意差は認められなかった。

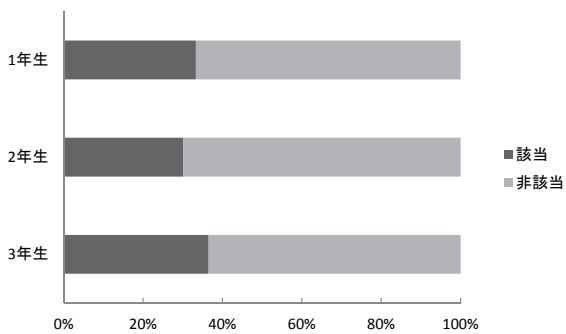


図 37 質問 4 (8) - ④

【質問 4】(8)「それについて、今後どのような対応を考えていますか。」

⑤「その他」

「それについて、今後どのような対応を考えていますか」の「その他」に回答した学生は、1年生24名(4.5%)、2年生27名(9.2%)、3年生21名(8.4%)となり、「その他」に回答しなかった学生は、1年生505名(95.5%)、2年生265名(90.8%)、3年生228名(91.6%)であった。検定の結果、学年と質問の回答との間に有意差は認められなかった。

の間に有意差が認められた ($\chi^2=8.15, df=2, p<.05$)。残差分析の結果、「その他」に回答した1年生の人数は期待度数よりも少なかった。

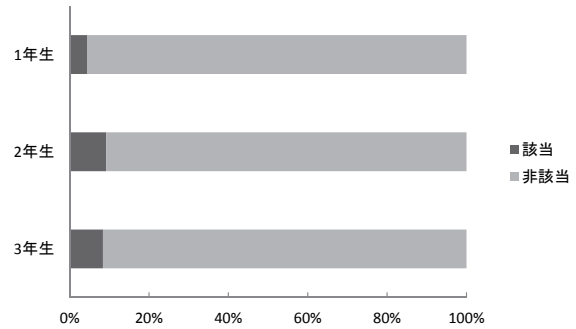


図 38 質問 4 (8) - ⑤

【質問 8】「あなたは『体罰』についてどのように考えていますか。」

①「容認している」

「あなたは『体罰』についてどのように考えていますか」の「容認している」に回答した学生は、1年生152名(9.1%)、2年生112名(7.7%)、3年生82名(7.7%)となり、「容認している」に回答しなかった学生は、1年生1,511名(90.9%)、2年生1,340名(92.3%)、3年生981名(92.3%)であった。検定の結果、学年と質問の回答との間に有意差は認められなかった。

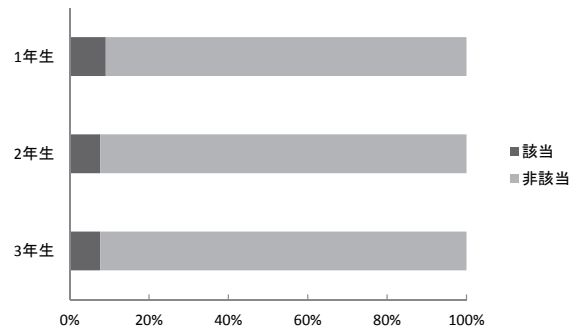


図 39 質問 8 - ①

【質問 8】「あなたは『体罰』についてどのように考えていますか。」

②「どちらかという容認している」

「あなたは『体罰』についてどのように考えていますか」の「どちらかという容認している」に回答した学生は、1年生305名(18.3%)、2年生189名(13.0%)、3年生158名(14.9%)となり、「どちらかという容認している」に回答しなかった学生は、1年生1,358名(81.7%)、2年生1,262名(87.0%)、3年生905名(85.1%)であった。検定の結果、学年と質問の回答との間に有意差が認められた ($\chi^2=17.22, df=2, p<.001$)。残

差分析の結果、1年生は他の学年に比べて体罰をどちらかというと容認すると答えた人数が期待度数より多く、2年生は期待度数より少なかった。

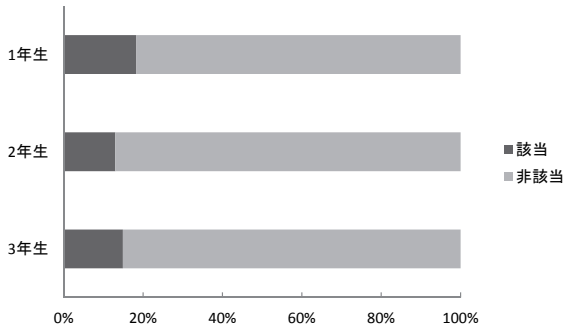


図 40 質問 8-②

【質問 8】「あなたは『体罰』についてどのように考えていますか。

③ 「どちらかというと容認していない」

「あなたは「体罰」についてどのように考えていますか」の「どちらかというと容認していない」に回答した学生は、1年生 347 名 (20.9%)、2年生 357 名 (24.6%)、3年生 218 名 (20.5%) となり、「どちらかというと容認していない」に回答しなかった学生は、1年生 1,316 名 (79.1%)、2年生 1,094 名 (75.4%)、3年生 845 名 (79.5%) であった。検定の結果、学年と質問の回答との間に有意差が認められた ($\chi^2=8.33$, $df=2$, $p<.05$)。残差分析の結果、2年生において体罰をどちらかというと容認していないと答えた人数が期待度数より多かった。

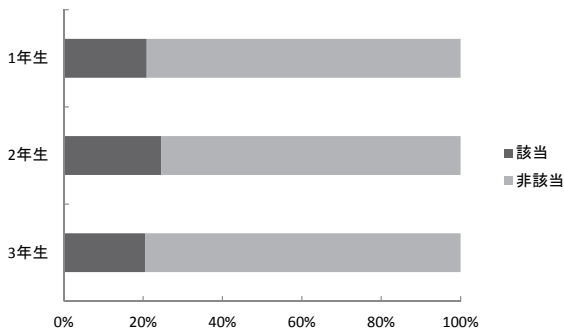


図 41 質問 8-③

【質問 8】「あなたは『体罰』についてどのように考えていますか。」

④ 「容認していない」

「あなたは「体罰」についてどのように考えていますか」の「容認していない」に回答した学生は、1年生 717 名 (43.1%)、2年生 751 名 (51.7%)、3年生 578 名 (54.4%) となり、「容認していない」に回答しな

かった学生は、1年生 946 名 (56.9%)、2年生 701 名 (48.3%)、3年生 485 名 (45.6%) であった。検定の結果、学年と質問の回答との間に有意差が認められた ($\chi^2=39.64$, $df=2$, $p<.001$)。残差分析の結果、1年生は他の学年に比べて体罰を容認していないと答えた人数が期待度数より少なく、2年生、3年生においては体罰を容認しないと答えた人数が期待度数よりも多かった。

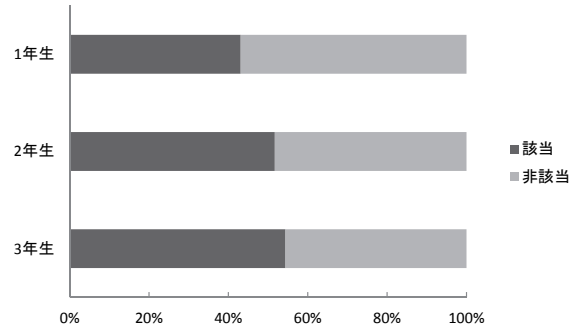


図 42 質問 8-④

考 察

(1) 他者からの体罰の経験、体罰の見聞きについて

調査結果を概観すると、「自分が体罰を受けたことがあった」「他者が体罰を受けているところを見たことがあった」「実際に見たことはないが、体罰があるという噂を聞いたことがあった」という質問に対して、全体的には「非該当 (なかった)」と答えた学生の人数が「該当 (あった)」と回答した人数よりも明らかに多かった。しかし、該当すると答えた学生を学年ごとに比較してみると、すべての質問において、1年生が2年生・3年生よりも「経験・見聞きをしていた」ことが明らかとなった。

1年生への調査は、本学へ入学した直後であるため、その回答根拠は高校生のときの経験ということになるであろう。その1年生が本学でのカリキュラムをとおして体罰排除教育を受けていくことで、少なからず影響を受けた結果と解釈することには妥当性がある。したがって、2年生と3年生が1年生よりも該当数が少ないということに関しては、本学がおこなっている体罰排除教育による明らかな効果と考えられる。

(2) 「内容」について

「殴る、蹴る、物で叩く等の暴力」については、各学年とも半分以上に経験者がいた。縦断的なデータではないので一概には言えないが、1年生よりも2年生の経験者の人数が少なくなっているが、3年生ではリバウンドのような現象が起きている。1年生のときに1年間の体罰排除教育を受講した学年が2年生になり、

3年生になると1年生のときに受講したときに感じた新鮮な経験が薄れてしまったこと、また教育経験が継続することで種の飽和作用が働いたためではないかと考えられる。

(3) 「いつ」について

1年生においては、「授業」ならびに「クラブ活動」という時間で被体罰を体験したと答えた学生が多く、これも高校生のときの振り返りである。2年生と3年生については、クラブ活動と答えた学生が多かった。こちらは本学での体験である。授業という時間枠のなかで、2年生と3年生の被体罰経験が少なかったことは、本学教員が「反体罰・反暴力」を実践している事実が再認識されたという結果にほかならないと考えられる。

(4) 「誰から」について

1年生は、「教科の担任」「クラブ活動の内部の指導者」に回答した学生が多かった。これも高校生の実態とマッチングしているものである。しかし、本学へ入学した後の2年生と3年生においては「在校生」と回答した者が多かった。このことは、大学という特殊な環境のもとによるが、少なくとも「反体罰・反暴力」指導を率先して実行している教員の意識は高くなっていくものと考えられる。

(5) 「回数」について

各学年ともに、1回のみと答えた学生の割合は類似の値であった。しかしながら、複数回と回答した学生の割合は、1年生と3年生が高く、2年生は低かった。このことへの解釈には難しいものがあるが、「内容」についての質問と同様、学年差によるものではないかと考えられる。

(6) 「体罰への容認の程度」について

1年生においては、「どちらかという容認している」と回答した学生の割合が、2年生と3年生よりも高かった。2年生と3年生においては、「容認していない」と回答した学生の割合が、1年生よりも高かった。なお、2年生においては、「どちらかという容認していない」と回答した学生の割合が1年生と3年生よりも高かった。これらのことについては、本学が「反体罰・反暴力」宣言を公表していることに加え、本学が体

罰排除教育をおこなっていることを入学式に聞いた1年生と、具体的な体罰排除教育の講義を受けた2年生と3年生との意識の違いが表れたものと推察される。

結 論

今回の調査で明らかとなったことは、1年生と2・3年生の「反体罰・反暴力」に対する考え方の違いが表面化されたことである。1年生の調査結果は、本学入学直後のオリエンテーション期間で実施したものであるため、本学入学前の高等学校での体験等をもとにして回答していることが容易に推測できる。それゆえに、回答された結果は、体罰排除教育の効果という点からとらえると、1年生は「ビフォー」ということになり、2年生と3年生は「アフター」といえよう。

この「ビフォー」「アフター」の意識の違いが、各学年における分析結果を如実に表している。総合的にみると、本学でおこなわれている体罰排除教育の実践活動にもかかわらず、残念ながら「体罰が完全には撲滅された」という現状には至っていない。しかし、「反体罰・反暴力」という考え方は多くの学生に浸透していることは間違いないであろう。このような「反体罰・反暴力」の行動を停滞することなく今後も邁進していくことで、本学だけでなくわが国に「体罰ゼロ」の日が近づくことを期待するものである。

参考文献

- 藤田主一・宇部弘子・福場久美子・鈴木悠介・本間悠也・小川拓郎・深見将志・藤本太陽・齋藤雅英・谷釜了正 (2014) 体罰・暴力における体育専攻学生の意識と実態, 日本体育大学紀要 44 (1), 21-32.
- 藤田主一・宇部弘子・福場久美子・市川優一郎・鈴木悠介・本間悠也・小川拓郎・深見将志・藤本太陽・谷釜了正 (2015) 日本体育大学における体罰排除教育の効果, 日本体育大学紀要 45 (1), 75-92.
- 谷釜了正・福場久美子・市川優一郎・小川拓郎・鈴木悠介・宇部弘子・軽部幸浩・藤田主一 (2016) 日本体育大学における体罰排除教育の取り組み—縦断的な視点に基づいて—, 日本体育大学紀要 45 (2), 141-150.

〈連絡先〉

著者名：谷釜了正
住 所：東京都世田谷区深沢 7-1-1
所 属：日本体育大学スポーツ史研究室
E-mail アドレス：tanigama@nittai.ac.jp